

男女共学化の時代 ——戦後京都の公立高・女子高・男子高——

2016年7月2日(土)—9月25日(日) 京都市学校歴史博物館

展示リスト

1, 新制高校の誕生(1階 第2展示室)

今日の高等学校にあたる、戦前の旧制中学校(男子校)と高等女学校は、徹底した男女別学の学校でした。しかし、戦後の1947(昭和22)年春から新しい学校制度への改革が始まり、その改革の中でも、「年頃」の男女が同じ教室でともに学ぶ男女共学は、当時の人たちの関心を集めました。

この改革は、進駐軍(占領軍)の主導で進められたこともあり、旧制中学校・高等女学校に通う生徒や親たちの多くは反対し、署名活動や街頭演説を行いました。しかし、教育改革を担った京都府軍政部民間情報教育課長ケーズは豪腕を振るい、改革を断行します(京都府公立高等学校長会編『歩み 京都府公立高等学校十周年記念誌』・「学制改革」を記録する会編『ああ朱雀 新制高校誕生の記録』)。

まず、1947(昭和22)年5月に始まった義務教育の新制中学校(現在の中学校)で、男女共学化が実施されます。次いで、1948(昭和23)年4月に新制高等学校が誕生しますが、当初はまだ男女別学のままで、いつ・どのように男女共学化されるのかはまだ決まっていませんでした。この頃の生徒や教員は、この教育改革に対して何を思い、どのような生活を送ったのでしょうか。



高等女学校のプレートの前に男子
1948(昭和23)年10月〈高校再編前〉

資料名 (○は写真パネル, □はパネル)	年代	学校	所蔵
○ケースと記念写真	1947(昭和22)年12月	修学院中学	当館
○学制改革で複数の門標	1948(昭和23)年3月	市立一中(旧制)	当館
○再編前の附設中学校3年のクラス写真	1948(昭和23)年夏	洛北高校附設 中学	個人
○高等女学校のプレートの前に男子	1948(昭和23)年10月	中京高校	当館
「新学校制度実施準備の案内」(文部省学校教育局)	1947(昭和22)年2月	—	当館
『京一中新聞』第1号	1947(昭和22)年1月	府立一中(旧制)	個人
□「六・三・三制問題を校長先生に聞く」(『京一中新聞』第1号より)	1947(昭和22)年1月	府立一中(旧制)	個人
「昭和二十年度 教務日誌 京都府立京都第一中学校」	1945(昭和20)年4月～ 1947(昭和22)年7月	府立一中(旧制)	京一中洛北 高校同窓会
□「昭和二十年度 教務日誌 京都府立京都第一中学校」より	1947(昭和22)年 4月26日-5月8日	府立一中(旧制)	京一中洛北 高校同窓会
『京一中新聞』号外	1948(昭和23)年4月	洛北高校	個人
□一面(『京一中新聞』号外より)	1948(昭和23)年4月	洛北高校	個人
『洛北高校新聞』第1号	1948(昭和23)年5月	洛北高校	個人
□「即時実施か、男女共学」「(洛北論壇)男女間の友情は可能か」「(座談会)私達のみた洛高生」(『洛北高校新聞』第1号より)	1948(昭和23)年5月	洛北高校	個人
『洛北高校新聞』第2号	1948(昭和23)年6月	洛北高校	個人
□「出演者の消化不良 「親睦会」の感想をきく」(『洛北高校新聞』第2号より)	1948(昭和23)年6月	洛北高校	個人
「宿直日誌」	1947(昭和22)年9月 ～翌年10月	府立一中(旧 制)・洛北高校	京一中洛北 高校同窓会
□「宿直日誌」より	1948(昭和23)年 5月16-23日	洛北高校	京一中洛北 高校同窓会
「昭和二十一年八月以降 会議録 京都府立京都第一中学校」	1946(昭和21)年8月～ 1948(昭和23)年10月	府立一中(旧 制)・洛北高校	京一中洛北 高校同窓会
□「昭和二十一年八月以降 会議録 京都府立京都第一中学校」より	1948(昭和23)年 5月19日	洛北高校	京一中洛北 高校同窓会
□「昭和二十一年八月以降 会議録 京都府立京都第一中学校」より	1948(昭和23)年 5月31日	洛北高校	京一中洛北 高校同窓会

2, 新制高校の再編(1階 第2展示室)

1948(昭和23)年4月に誕生した新制高等学校は、同年10月15日に大規模な再編が行われました。すなわち、居住地で通学校が決まる小学区制(地域制)、男女共学制、学科を無くして履修科目を選択制にする総合制の開始です。また、この再編は、旧制で入学した生徒が在籍する新制高等学校附設中学校でも行われました。

当時の人にとっては、男女がともに学ぶということで、これから何が起こるのか見当が付きません。しかし、大人たちの動揺やうろたえ(小山静子著『戦後教育のジェンダー秩序』)に対して、当事者である生徒たちは男女共学をすんなり受け入れ、楽しんだ者が多数だったようです。

また、男女共学によって旧制中学校と高等女学校の文化が融合され、その成果は、高校再編後すぐに結成された多様で本格的な部活動や、運動会などの学校行事などにみられます。(『学制改革』を記録する会編『ああ朱雀 新制高等学校誕生の記録』)



様々な制服を着て(運動場)
1948(昭和23)年10月〈高校再編後〉

資料名 (○は写真パネル, □はパネル)	年代	学校	所蔵
○朱雀高校になった母校の前で	1948(昭和23)年10月	朱雀高校	個人
○様々な制服を着て(運動場)	1948(昭和23)年10月	朱雀高校	個人
○学友会発足記念親睦会での混声合唱(音楽部)	1948(昭和23)年12月	朱雀高校	個人
『学友会誌』第60号	1948(昭和23)年10月	洛北高校	京一中洛北 高校同窓会
□「男女共学に関する調査報告」(部分, 『学友会誌』第60号より)	1948(昭和23)年10月	洛北高校	京一中洛北 高校同窓会
(複写)朱雀高校学友会発足記念親睦会プログラム	1948(昭和23)年12月	朱雀高校	個人
○様々な制服を着て(昇降口前)	1948(昭和23)年11月頃	朱雀高校	個人
○体操部のメンバー	1948(昭和23)年12月頃	桃山高校	個人
○卒業前のクラス写真	1949(昭和24)年3月	桃山高校	個人
○再編後の附設中学校3年のクラス写真	1948(昭和23)年11月	鴨沂高校附設 中学	個人
○附設中学校最後の学級写真	1949(昭和24)年3月	朱雀高校附設 中学	個人
『西京学園新聞』創刊号	1948(昭和23)年12月	西京高校	西京同窓会
『鴨沂新聞』創刊号	1949(昭和24)年2月	鴨沂高校	個人
□「春がやってくる 男女共学も大成功です」(『鴨沂新聞』創刊号より)	1949(昭和24)年2月	鴨沂高校	個人
卒業寄書帳	1949(昭和24)年3月	桃山高校	個人
人文科学研究部『LA RENAISSANCE Ⅰ』	1949(昭和24)年3月	朱雀高校	個人
人文科学研究部『LA RENAISSANCE Ⅱ』	1949(昭和24)年5月	朱雀高校	個人
人文科学研究部『LA RENAISSANCE Ⅲ 創設発足一周年記念』	1949(昭和24)年12月	朱雀高校	個人
学校から家庭への通知(夏休みの過ごし方)	1950(昭和25)年7月	鴨沂高校	個人
○共学高校の卒業直後に嵐山にて	1949(昭和24)年4月頃	—	個人
○初めてマキノスキー場へ	1950(昭和25)年1月	朱雀高校	個人
○美術部(『卒業アルバム』より)	1950(昭和25)年	朱雀高校	個人
『朱雀学友会誌』創刊号	1951(昭和26)年3月	朱雀高校	個人
□部報「美術部」「人文科学研究部」(『朱雀学友会誌』創刊号より)	1951(昭和26)年3月	朱雀高校	個人
○揚げば尊し(3年2組, 『卒業アルバム』より)	1950(昭和25)年10月	鴨沂高校	個人
○揚げば尊し(3年4組, 『卒業アルバム』より)	1950(昭和25)年10月	鴨沂高校	個人
○揚げば尊し(3年5組, 『卒業アルバム』より)	1950(昭和25)年10月	鴨沂高校	個人
○揚げば尊し(3年6組, 『卒業アルバム』より)	1950(昭和25)年10月	鴨沂高校	個人
○揚げば尊し(3年8組, 『卒業アルバム』より)	1950(昭和25)年10月	鴨沂高校	個人
運動会プログラム	1949(昭和24)年11月	鴨沂高校	個人
第二回 運動会プログラム	1950(昭和25)年10月	鴨沂高校	個人
『学友会誌』第4号	1953(昭和28)年12月	洛北高校	京一中洛北 高校同窓会
□「男女の交際」(『学友会誌』第4号より)	1953(昭和28)年12月	洛北高校	京一中洛北 高校同窓会
○クラス写真(『卒業アルバム』より)	1950(昭和25)年	鴨沂高校	個人
○修学旅行写真	1951(昭和26)年4月	朱雀高校	個人

3, 女子高・男子高(1階 第2展示室)

京都における公立高校の男女共学化は、男女別学の私立高校の存在を抜きに語ることはできません。というのも、1950(昭和25)年の全国における高校の私学在籍者率は、男子13%、女子23%にすぎませんでしたが、京都市内では男子31%、女子49%と全国に比べて非常に高かったからです。当時の京都市内の私立高校は、同志社高校と京都商業高校を除いて、男女別学でした。1960(昭和35)年には、京都市内高校の私学在籍者率が男子47%、女子71%と、さらに上昇します。(小山静子他編『戦後公教育の成立 京都における中等教育』を参照)

その背景には、当時の高校進学率上昇にともなって年々増加した高校入学者を、私立高校が受け入れていたという現実があります。特に、女子の私学在籍者率が高いことには注目すべきです。つまり、京都市内の高校全体に占める公立共学高校の在籍者率は、新制高校が誕生してから年々下がっており、1960(昭和35)年の時点では、女子はおよそ3人に2人が私立の女子高に通っていたのです。



仮装行列「学生に関する十二音」
1954(昭和29)年、光華高校(女子高)

資料名 (○は写真パネル, □はパネル)	年代	学校	所蔵
○創立当初の校舎	1952(昭和27)年頃	洛星中学	洛星中
○教室にて	1959(昭和34)年	大谷高校	大谷高
○電車通学	1960(昭和35)年	光華高校	京都光華高
『洛星新聞』創刊号	1952(昭和27)年6月	洛星中学	洛星中
『洛星新聞』第3号	1953(昭和28)年1月	洛星中学	洛星中
『洛星新聞』第4号	1953(昭和28)年6月	洛星中学	洛星中
『點描』第2号	1961(昭和36)年	大谷高校	大谷高
『點描』第4号	1963(昭和38)年	大谷高校	大谷高
□「横浜市立南高等学校を訪ねて」(部分, 『點描』第2号より)	1961(昭和36)年	大谷高校	大谷高
□「平安女学院訪問記」(部分, 『點描』第4号より)	1963(昭和38)年	大谷高校	大谷高
○クリスマス・ページェント	1954(昭和29)年	同志社女子高校	同志社女子高
○タイプ実習	1957(昭和32)年	京都橘女子高校	京都橘高
簿記計算機	1950(昭和25)年頃	京都手芸高校	京都橘高
○仮装行列「Ⅲ年Ⅱ 初恋」	1958(昭和33)年	大谷高校	大谷高
○仮装行列	1960(昭和35)年頃	洛星高校	洛星高
○仮装行列「学生に関する十二音」	1954(昭和29)年	光華高校	京都光華高
○仮装行列「男の一生」	1960(昭和35)年	同志社女子高校	同志社女子高
『同志社女子高新聞』第15号	1963(昭和38)年	同志社女子高校	同志社女子高
『同志社女子高新聞』第20号	1965(昭和40)年	同志社女子高校	同志社女子高
□「現代の女子教育の在り方」(『同志社女子高新聞』第20号より)	1965(昭和40)年	同志社女子高校	同志社女子高
『菩提樹』創刊号	1960(昭和35)年	家政学園高校	京都文教高
□「高校生に於ける男女交際」(『同志社女子高新聞』第15号より)	1963(昭和38)年	同志社女子高校	同志社女子高
□「私」(『菩提樹』創刊号より)	1960(昭和35)年	家政学園高校	京都文教高
□「私の夢」(『菩提樹』第2号より)	1961(昭和36)年	家政学園高校	京都文教高
□「私の理想の人生」(『菩提樹』第4号より)	1963(昭和38)年	家政学園高校	京都文教高

4, 男女共学の定着(1階 第2展示室 / 3階 第3展示室)

1952(昭和27)年3月に、最後の旧制中学校・高等女学校入学者が新制高校を卒業し、翌月から完全な新制に移りました。一方この年には、前年にサンフランシスコで調印された講和条約が発効し、間接統治下にあった日本は主権を回復(沖縄を除く)、同時に進駐軍は撤退しました。

その後、全国的に男女共学の見直し論議が起こります(小山静子著『戦後教育のジェンダー秩序』を参照)。しかし京都では、すでに男女共学が定着しており、このような論議はほとんど起こりませんでした。その背景には、先に述べたように京都には男女別学の私立高校が多数あったことと、高校再編で男女共学制だけでなく小学区制を実施したことによって各公立高校内の男女比率が一定に保たれ、制度だけではなく実態として男女共学化されていたことがあげられます。(小学区制を実施しなかった地域では、旧制中学校を継ぐ高校には男子が、高等女学校を継ぐ高校には女子が集まる傾向がありました。また、このことと関連して、進学高校とそうでない高校のあいだで序列が生じ、進学高校に男子が集まる傾向もありました。)



私市(きさいち)にて
1956(昭和31)年、桂高校

資料名 (○は写真パネル, □はパネル)	年代	学校	所蔵
○戦中生れ世代が高校生になった頃の青春の一コマ	1955(昭和30)年	西京高校	当館
○短パンとちよちんブルマー	1953(昭和28)年頃	日吉ヶ丘高校	日吉ヶ丘高
英語の教科書 読本(リーダー) 沢崎九二三編集代表『NEW ENGLISH READERS SENIOR 1』 (開隆堂出版)	1953(昭和28)年 文部省検定済	日吉ヶ丘高校	当館
英語の教科書 作文文法(ライティング・グラマー) 成田成寿・松川昇太郎『HOW TO WRITE GOOD ENGLISH (Revised) 3』(教育出版)	1953(昭和28)年 文部省検定済	日吉ヶ丘高校	当館
英語の教科書 青木常雄『AOKI'S PRACTICAL-ENGLISH FOR HIGH SCHOOLS 1』(修文館出版)	1952(昭和27)年 文部省検定済	日吉ヶ丘高校	当館
英語の教科書 読本(リーダー) 大塚高信『SENIOR READINGS IN ENGLISH 3』(教育図書)	1956(昭和31)年 文部省検定済	日吉ヶ丘高校	当館
英語の教科書準拠参考書 『SENIOR READINGS IN ENGLISH 3』(文理書院)	1958(昭和33)年頃	日吉ヶ丘高校	当館
○定時制 夜の教室 その1	1955(昭和30)年	堀川高校定時制	当館
○仮装行列	1958(昭和33)年	西京高校	当館
○私市(きさいち)にて(『自家製アルバム』より)	1956(昭和31)年2月	桂高校	個人
○フォークダンス	1962(昭和37)年	西京高校	個人
○屋内体育祭	1963(昭和38)年	塔南高校	当館
自家製アルバム(高3)	1956(昭和31)年2月	桂高校	個人
テスト用紙(高3 英作文、文法問題)	1956(昭和31)年	桂高校	個人
生徒手帖	1956(昭和31)年	日吉ヶ丘高校	当館
『大学受験英語ラジオ講座 9月テキスト』(三省堂)	1958(昭和33)年	—	当館
『葦 ashi』創刊号	1959(昭和34)年	日吉ヶ丘高校	当館
□「私は思う。互に考える男子観・女子観(座談会 高校という 所)」(『葦 ashi』創刊号より)	1959(昭和34)年	日吉ヶ丘高校	当館
○窓の無い廊下を背景に	1964(昭和39)年	塔南高校	塔南高
○助けて頂戴! 受験地獄	1966(昭和41)年	堀川高校	堀川高
○仮装行列「危!” ヤアヤアヤア 原子力潜水艦がやって来る!”	1964(昭和39)年	紫野高校	紫野高
○仮装行列「要求貫徹 安保粉碎」	1969(昭和44)年	洛陽工業高校	洛陽工高
○定時制 夜の教室 その2	1969(昭和44)年	西京商業高校定時制	西京高
○クラス記念写真	1973(昭和48)年	日吉ヶ丘高校	当館
男子標準服	1970年代後半～	西京商業高校	村田堂
女子標準服	1970年代後半～	西京商業高校	村田堂



フォークダンス
1962(昭和37)年, 西京高校

5, 家庭科の男女共修(3階 第3展示室)

男女共学が定着しても、男女がまったく同じ教科・科目を学んでいたわけではありません。その最たる例が、家庭科です。

全国で高校家庭科が男女必修になるのは、1994(平成6)年度入学生からです。しかし京都市では、1963(昭和38)年から堀川高校定時制で家庭科の男女共修が実施され、その影響を受けながら、京都府立高校で1973(昭和48)年から順次、教員たちの自主編纂教材を用いた家庭科の男女共修が始まります。この家庭科男女共修は、1985(昭和60)年まで制度として続けました。(井上えり子・田中任代「京都府立高校男女共修家庭科実践史1—先行研究の検討と研究課題—」)

資料名 (○は写真パネル, □はパネル)	年代	学校	所蔵
□扉絵・写真 石三次郎・稲垣長典監修『家庭一般』(学研書籍)	1962(昭和37)年 文部省検定済	—	井上研究室
□扉絵・写真 その1 山本キク『家庭一般』(一橋出版)	1968(昭和43)年 文部省検定済	—	井上研究室
家庭科の教科書 石三次郎・稲垣長典監修『家庭一般』(学研書籍)	1962(昭和37)年 文部省検定済	—	井上研究室
家庭科の教科書 山本キク『家庭一般』(一橋出版)	1968(昭和43)年 文部省検定済	—	井上研究室
□扉絵・写真 その2 山本キク『家庭一般』(一橋出版)	1968(昭和43)年 文部省検定済	—	井上研究室
□扉絵・写真 青木茂ほか『新版 家庭一般』(中教出版)	1975(昭和50)年 文部省検定済	—	井上研究室
家庭科の教科書 青木茂ほか『新版 家庭一般』(中教出版)	1975(昭和50)年 文部省検定済	—	井上研究室
家庭科の教科書 青木茂『新版 家庭経営』(中教出版)	1975(昭和50)年 文部省検定済	—	井上研究室
プリント「家庭一般 男女共学2単位 1年 普・商 1971,4~ 1972,3」	1971(昭和46)年度	堀川高校定時制	井上研究室
京都府立高等学校市内ブロック「京都市内府立高校に於ける 家庭科の男女共修の実態と今後のあり方」	1971(昭和46)年	—	井上研究室
□「4, まとめ」(京都府立高等学校市内ブロック「京都市内府立高校に於ける 家庭科の男女共修の実態と今後のあり方」より)	1971(昭和46)年	—	井上研究室
□扉絵・写真 青木茂『新版 家庭経営』(中教出版)	1975(昭和50)年 文部省検定済	—	井上研究室
京都府立鴨沂高等学校職業教育検討委員会編「家庭一般 生活科学(I) 1975年度」	1975(昭和50)年	鴨沂高校	井上研究室
□目次・最初のページ(京都府立鴨沂高等学校職業教育検討委員会編 「家庭一般 生活科学(I) 1975年度」より)	1975(昭和50)年	鴨沂高校	井上研究室
京都府立高等学校家庭科研究会指導資料作成委員会編『男女共修 「家庭一般」指導資料』	1973(昭和48)年	—	井上研究室
□「まえがき」(京都府立高等学校家庭科研究会指導資料作成委員会編 『男女共修「家庭一般」指導資料』より)	1973(昭和48)年	—	井上研究室
京都府立高等学校家庭科研究会指導資料作成委員会編『男女共修 「家庭一般」資料』	1975(昭和50)年	—	井上研究室
□「学習のはじめに」(京都府立高等学校家庭科研究会指導資料作成委員 会編『男女共修「家庭一般」資料』より)	1975(昭和50)年	—	井上研究室
□「保育施設と保育制度」(京都府立高等学校家庭科研究会指導資料作 成委員会編『男女共修「家庭一般」資料』より)	1975(昭和50)年	—	井上研究室
京都府立高等学校家庭科研究会指導資料作成委員会編『男女共修 「家庭一般」資料』	1976(昭和51)年(推 定)	—	井上研究室
□「旧民法と現行民法の比較」(京都府立高等学校家庭科研究会指導 資料作成委員会編『男女共修「家庭一般」資料』より)	1976(昭和51)年(推 定)	—	井上研究室
京都府立高等学校家庭科研究会資料作成委員会編『男女共修 「家庭一般」資料』(改訂版)	1979(昭和54)年	—	井上研究室
□扉絵・写真 一番ヶ瀬康子ほか編『家庭一般』(一橋出版)	1981(昭和56)年 文部省検定済	—	井上研究室

解説

1, 戦前の中等教育

中等教育とは、中学校・高等学校での教育のことです。しかし、戦前は現在のような中学校・高等学校は無く、まったく異なる学校制度でした。戦前の中等教育が現在と異なるところは、

- ①男女別学
- ②義務教育ではない
- ③学校の種類がたくさんある
- ④学校の種類によって入学試験の有無が異なり、学校によって在学年数が異なる

という4点です。下記に、戦前の中等教育の学校をいくつか挙げておきます。

- ・中学校(男子普通教育, 5年制)
- ・高等女学校(女子普通教育, 4~5年制)
- ・男子実業学校(商業学校や工業学校, 3~5年制)
- ・女子実業学校(裁縫学校など, 3~4年制)
- ・青年学校(男女別学で名称も様々, 在籍年数も様々, 学校のあり方も様々)

特に中学校と高等女学校は、男女それぞれのエリートコースでした。これが、戦後の新制度で下記のようにまとまりました。

- 前期中等教育…中学校(公立は共学, 3年制, 義務教育)
- 後期中等教育…高等学校(公立は共学, 3年制) ※ただし京都府以外では男女別学あり。

戦前の中等教育の学校は、戦後に中学校になったところと、高等学校になったところがあります。今回の企画展「男女共学化の時代」は、この戦後に新しく生まれた高等学校が舞台になります。

2, 旧制から新制にかわる過程の略年表(京都市)

1945(昭和20)年8月

終戦

1947(昭和22)年5月

新制中学校(現在の中学校)が誕生。3月に国民学校初等科(今の小学校)を卒業した者は、原則として全員が新制中学校に入学(新制中学校1年生)。3月に国民学校高等科1・2年に在籍した者のうち、希望者は新制中学校に転入学(新制中学校2・3年生)したが、3年生への転入学は修学年が1年延びることになるので希望者がごくわずかだった。旧制中等教育学校には原則として入学者がいないので、1年生なし、2年生・3年生は旧制中等教育学校に設置された附設中学校(または併設中学校)に通った。

1948(昭和23)年4月

旧制中等教育学校が廃校、**新制高等学校が誕生。**ただし、この時に誕生した新制高等学校は、実態は旧制中等教育学校のまま(男女別学)。この時、新制高等学校のうちいくつかは校舎を新制中学校にゆずり、他の新制高等学校と同居して午前・午後に分かれて二部授業を開始。

〈1948年3月〉

旧制中等教育学校5年

→

〈1948年4月〉

新制高等学校3年

旧制中等教育学校4年

→

新制高等学校2年

旧制中等教育学校附設中学校3年

→

新制高等学校1年

旧制中等教育学校附設中学校2年

→

新制高等学校附設中学校3年

新制中学校1年・2年

→

新制中学校2年・3年

入学せずに旧制で卒業することも可能だったので、初年度は3年生が少ない。

1948(昭和23)年10月

新制高等学校が再編され、**小学区制(地域制)・男女共学制・総合制**が導入される。

→小学区制の実施により、大量の転校生が生まれる。

総合制の導入により、工業高校・商業高校・農業高校がなくなる。

小学区制とは、小学校のように居住地の近くの学校に通うこと。総合制とは、学科を無くして実業科目を選択制にすること。

1949(昭和24)年3月

新制高等学校2年生は、翌月に新制高等学校3年生にならず、旧制で卒業することも可(5年修了)。

1952(昭和27)年3月

最後の旧制中等教育学校入学者が新制高等学校を卒業。

3, 生まれた年度別の戦中・戦後

戦中・戦後に中等教育を受けた人たちは、学年が1年違うだけで、全く違った制度のもとで学校に通いました。

※以下の「入学」とは、国民学校初等科(現在の小学校)を卒業して最初の入学(旧制中等教育学校もしくは新制中学校)のことです。

1943(昭和18)年度入学 <1930(昭和5)年度生>

旧制中等教育学校に学区制(戦後の小学区より学区が広い)が導入された最初の年に入学。受験合格後に近隣の学校に振り分けられた。1948(昭和23)年3月に旧制のまま卒業したが(旧制は5年制なので新制高等学校2年修了にあたる)、1949(昭和24)年4月に創設される新制大学(今の大学)への進学を希望する者は、翌月に新制高等学校3年への編入学が認められた。新制高校1期生。

1944(昭和19)年度入学 <1931(昭和6)年度生>

旧制中等教育学校に入学(学区制)。1948(昭和23)年4月に新制高等学校2年に編入学。翌年3月末に、旧制の中等教育学校(5年制)で卒業するか、新制高等学校の3年生になるか、選択できた。新制高等学校2期生。

1945(昭和20)年度入学 <1932(昭和7)年度生>

旧制中等教育学校に入学(学区制)。附設中学を経て、1948(昭和23)年4月に新制高等学校1年に入学。新制高等学校3期生。

1946(昭和21)年度入学 <1933(昭和8)年度生>

旧制中等教育学校に入学(学区制)。附設中学3年生のときに男女共学化を経験し、1949(昭和24)年4月に新制高等学校1年に入学。新制高等学校4期生。

1947(昭和22)年度入学 <1934(昭和9)年度生>

最初の新制中学校1年生。この学年から完全に新制に移行。新制高等学校5期生。

※この学年は、1941(昭和16)年4月の国民学校最初の入学生であり、1947(昭和22)年3月の国民学校最後の卒業生であり、同年5月の新制中学校最初の入学生でもあった。

なお、旧制中等教育学校への入学も、新制高等学校への入学も、家庭と経済の条件が整わなければ実現できないことでした。

高校進学率(全国)は、1950(昭和25)年で43%、1957(昭和32)年でもまだ51%でした。しかし翌年から急上昇し始め、1974(昭和49)年に90%を超えます。

文責:和崎光太郎(当館学芸員)

【主な参考文献】(刊行順)

- ・『歩み 京都府公立高等学校十周年記念誌』京都府公立高等学校長会、1958(昭和33)年
- ・『ああ朱雀 新制高校誕生の記録』「学制改革」を記録する会編、かもがわ出版、1993(平成5)年
- ・『戦後公教育の成立 京都における中等教育』小山静子・菅井鳳展・山口和宏編、世織書房、2005(平成17)年
- ・『戦後教育のジェンダー秩序』小山静子、勁草書房、2009(平成21)年
- ・『第16回 教科書展 中等教育用教科書(家庭科編)』京都教育大学附属図書館編・発行、2011(平成23)年
- ・「京都府立高校男女共修家庭科実践史1——先行研究の検討と研究課題——」井上えり子・田中任代、『京都教育大学教育実践研究紀要』第13号所収、2013(平成25)年
- ・『学びやタイムスリップ 近代京都の学校史・美術史』京都市学校歴史博物館編、京都新聞出版センター、2016(平成28)年11月発行予定

ほか、各学校の記念誌(年史)、学校新聞、生徒会誌など。

【協力機関及び協力者】(50音順・敬称略)

大谷中学校・高等学校 / 京都一中洛北高校同窓会 / 京都教育大学 井上えり子研究室
京都光華中学校・高等学校 / 京都市立各高等学校 / 京都橘中学校・高等学校 / 京都文教中学校・高等学校
西京同窓会 / 同志社女子中学校・高等学校 / 堀川同窓会 / (有)村田堂 / 洛星中学校・高等学校
植松迪夫 / 大亀淑 / 加地安寛 / 久保田英男 / 清澤とも子 / 佐野康夫 / 西川久子 / 服部康弘
藤井房子 / 森一郎 / 光川澄子 / 宮島慶子 / 和多田弘子